資料－1

第７回平取ダム環境検討委員会における指摘と対応（1/3）

分　類	指　　摘　　事　　項	第７回委員会での回答内容	委員会後の対応結果
自然環境（動物）	・ハヤブサの予測においては、工事中の騒音や人の動き等の影響をみているが、この場合、今回予測対象としている影響要因（直接改変とそれ以外）とは違う区分になるのではないか。（藤巻委員）	直接営巣地が失われるわけではないので、直接改変以外の影響と整理できると考えるが、表現としては、誤解を与えないよう検討する。	直接改変以外の影響に工事に係る騒音等を追記した。
	・テリトリーを持つオオタカ等猛禽類の予測で、「同様の環境が残存することによって影響が小さい」と表現されているが、簡単に隣に移れるものではなく読み手の誤解を招く恐れがあり、ペア毎の重要な環境を検討し予測の記述に反映すべき。（齊藤委員）	指摘のとおり記述を検討する。	確認例数の多い猛禽類については、種別に確認頻度を検討し、利用頻度の高いエリアを踏まえた記述に修正した。 それ以外の鳥類の重要種については、調査結果が得られている場合には、営巣木の確認等を踏まえた記述に修正した。
	・エゾウグイの予測で記述されているように、春期に水を貯めず、その後水位が上昇するようなダム運用であれば、春期に産卵する他の魚類も同様の影響を受けると考えられるため、慎重に検討すべき。（眞山委員）	―	種別の確認状況や産卵時期を考慮し、影響が懸念されるエゾウグイとシベリアヤツメについて記述を修正した。
	・アサマシジミ北海道亜種の例に見られるように、確認状況の概要の記述に重複する表現があるため、簡潔に分かりやすくすること。（坂本委員）	―	確認状況の記述を修正した。
自然環境（植物）	・保全措置案の例について、移植、播種などが検討されているが、遠方に移植等を行う場合、移植先の同種植物の遺伝子汚染が懸念される。（高橋委員）	遺伝子の攪乱や移植先の環境収容力の問題等は重要で指摘あるが、全国的にも今後研究が必要な分野であり、現時点で事業アセスに適用できる知見が揃っていない。	―
	・アポイカラマツ、ソラチコザクラ（岩場に生育する種）の移植の具体的な方法は検討されているのか（高橋委員）。	具体的な方法については、今後学識者のご指導を受けつつ検討する。	―

第７回平取ダム環境検討委員会における指摘と対応（2/3）

分　類	指　　摘　　事　　項	第７回委員会での回答内容	委員会後の対応結果
生態系	・典型性の予測において、河川域では生息する動物の情報も整理されているが、陸域はそれがないのは、まだデータが整理されていないからなのか。（藤巻委員）	データが整理され次第、同様の整理を行う。	陸域典型性について生物群集の生息状況について整理した。
	・生態系の予測について、上位性と典型性間で情報を相互に反映すべきであり、典型性で生息動物が変化しないのであれば、上位性についても餌資源が変化しないと整理できないか検討すべき。（藤巻委員）	データ整理を行い、餌環境として量的な変化を捉えることが可能であれば予測の中に取り込み、有機的につながりのある予測を検討する。	典型性の予測結果を上位性の餌資源の変化として反映させた。
	・上位性の予測において、個々のクマタカのつがいの予測結果を記載しているが、単独個体や亜成鳥も重要であり、つがいを指標として検討していることを明記すべき。（斎藤委員）	指摘のとおり記述を修正する。	上位性の予測の記述を修正した。
	・上位性の影響予測フロー図について、保全措置を行った後、モニタリングの実施や必要に応じた回復措置を追加すべき。（斎藤委員）	指摘のとおり記述を修正する。	影響予測フロー図を修正した。
	・河川域の典型性において、従来のダム湖とは運用方法が異なることから、十勝ダム、二風谷ダムでの魚類の検証は再検討する必要がある。（真山委員）	再度整理したい。	ダム運用を踏まえた魚類の生息状況を予測した。
	・移動性のサクラマスの産卵についても、ダム運用を踏まえた検討をすること。（真山委員）	―	サクラマスの生態と湛水予定地の河川状況から、湛水予定地内で産卵する可能性は低く、ダム運用がサクラマスの産卵に与える影響は小さいと考えられる。
	・鳥類についても十勝ダムの確認種は、参考例としては使えないと考えられる。（藤巻委員）	再度整理したい。	類似ダムとして、二風谷ダムを選定し、水鳥の生息状況を予測した。

第７回平取ダム環境検討委員会における指摘と対応（3/3）

分　類	指　　摘　　事　　項	第７回委員会での回答内容	委員会後の対応結果
景観	・ダム及びダム周辺の全体的な景観を検討し、長期にわたって景観を担保していくことが必要である。（中井委員）	―	今後、地元自治体と充分に相談して進めたい。
	・ダム運用による常時満水位から最低水位の間には裸地が生じるのではないか。（藤巻委員）	裸地については、今後の重要な課題と認識している。	―
地域と関わりがあり多くの人が訪れる場	・すずらん群生地の保全のため、受粉を促進していると考えられるマルハナバチを維持するため、周辺牧草地のシロツメクサ等の混播率を高めるなどの対策を検討すべき。（高橋委員）	―	すずらんとマルハナバチの一般的生態から事業による影響は小さいと考える。
	・「すずらん群生地は地形改変を行わず保全される」と言い切れるのか不安である。（越塚委員）。 ・スズラン群生地の予測結果の概要など「影響が想定されない」と言い切り型の表現をしているものについて、慎重に検討し影響の有無の記述を行うこと。（坂本委員）	慎重な表現を検討する。	予測結果の概要の記述を修正した。
	・地域との関わりがあり多くの人が訪れる場の項目で、多くの人が訪れることが本当にいいのかどうか、どういう指標で評価するのが良いのか整理すべき。（中井委員）	アセスの範疇で検討している内容は、現況が変わらないことを指標としている。	―